

4月22日 経済水道委員会（岡田ゆき子委員・西山あさみ委員）

熊本地震で暮らしが大変・・・力合わせて復興支援へ 名古屋城天守閣に人や資材を集中する時ではない

4月22日の経済水道委員会で、工期4年4ヶ月の「無謀な」名古屋城天守閣木造復元について議論が行われました。



熊本城崩壊・木造復元ありきの方針は転換を

熊本地震によって、国の特別史跡・熊本城跡の重要文化財となっている櫓が石垣もろとも崩れました。「復旧には10年以上かかる」ともいわれます。名古屋城天守閣は耐震性が低いと心配するなら、29億円ですぐに耐震改修すればいいことです。

西山あさみ議員は、「被災地の復旧・復興、熊本城跡も復旧を進めなければいけない時に、名古屋市が名古屋城の天守閣に人（宮大工などの職人）や資材（木材など）をかき集めるようなことをやっていいのか」と厳しく追及し「『木造復元ありき』の方針を転換すべきだ」と求めました。

石垣などの調査をして再検討を

名古屋城の天守台の石垣は、「震災によって、もろくなっている可能性がある」「はらみのある北面全体を積み直す必要がある」といわれています。「石垣の改修を優先すべき」という意見も出ました。天守閣を建て替えてから石垣を直すという市のスケジュールは、常識はずれのやり方です。岡田ゆき子議員は、「熊本地震による熊本城の石垣の崩落などを調査してから再検討すべきだ」と求めました。

名古屋城の入場者数見込み(2016.4.28委員会資料より)

年度	入場者(万人)	入場料(億円)	備考
27	174	-	-
28	180(197)	入場料のうち75%を天守閣分とする	天守閣閉鎖と駆け込み需要本丸御殿第2期公開
29	90(98)		天守閣閉鎖
30	160(174)		復元工事見学施設金シャチ横丁開業本丸御殿全面公開
31	160(174)		展示収蔵施設完成
32	384(418)		17.91
33	446(485)	24.13	ブームの縮小
34	401(437)	21.70	
35	360(393)	19.48	
36~81	年 360(393)	年 19.48	46年間の累計896億800万円

* 入場者数の()は最大見込み。入場料は改定後の見込み

取り壊し先行で後戻りできないスケジュール

「東京オリンピックまでに」というのは無理に無理を重ねたスケジュールだということも、同委員会での議論ではっきりしました。今年12月にはエレベーターの解体に着手し、天守閣は閉鎖するという工程です。しかし、その頃は実施設計を行っている最中です。設計も終わっていないのに、天守閣の解体に着手したら、設計で問題が出てきても、もう後戻りできません。議会の承認も無視した無茶苦茶なスケジュールです。

市民を惑わすアンケートは中止を

2万人アンケート案を見ると、いい加減なデータを示す、恣意的で市民を惑わさないようになっています。

アンケートと同時に配布される解説では「現天守閣は、半世紀以上が経過し、耐震改修した場合でもコンクリートが概ね40年の寿命という調査結果が出ています」と根拠のない40年寿命を強調。しかし、鉄筋の腐食を防止するための適切な酸化防止策などを修繕をせば、維持できます。木造でも手入れしなければ同じことです。

また、600億円以上になる借金返済に、現在170万人しかない入場者が50年間も400万人の入場者が来ることを前提に入場料で返せるといっています。これも全く根拠がありません。

天守閣木造復元整備にかかる財源フレーム(案)

区分	金額	内容
総事業費	505億円	・基本設計、実施設計 ・仮設工事、解体工事、本体工事、石垣工事
財源内訳	起債 505億円	・観光その他事業債(充当率100%)

平成28~81年度の収支計画天守閣

区分	金額	積算の考え方	
		改定	現行
収入	979億円	500円	500円
		450円(市民)	450円(市民)
		1,000円(市外)	1,000円(市外)
補助金	-	確定的な収入見込額が算出できない	
寄附金	-	確定的な収入見込額が算出できない	
区分	金額	積算の考え方	
公債償還金	605億円	元金 505億円	利子 100億円
運営管理費	276億円	平成26年度実績で試算	
		平成28~31年度(天守閣閉鎖中)	年平均 約1億円
		平成32~81年度	年平均 約5億円
集客促進費	2億円	木造復元にかかる周年事業	
修繕費	30億円	平成81年度までの必要額	
基金積立	64億円	支出を上回る収入を基金に積立	
計	979億円		

* 「運営管理費」は効率的運営・民間活力の活用などでさらに削減